



国産？

細谷 英行[†]

Made in Japan ?

Hideyuki HOSOYA[†]

2010年第1四半期の話題は、なんとと言ってもバンクーバーオリンピックと自動車のリコール問題ではないでしょうか。オリンピック報道を通じて、フィギュアスケート、スピードスケート、モーグル、ジャンプ、カーリングなど日頃はあまり目にしないスポーツを観戦し、ルールが今ひとつ分からないながらも一喜一憂しつつ久々に日本という国を応援して、少々愛国心を刺激された方も多かったものと思われます。昨年のワールド・ベースボール・クラシックといい、もうじき始まるサッカー・ワールドカップといい、国際試合は洋の東西を問わず国全体が非常に盛り上がり多くの人々に大きな感動を与えるようです。

一方、自動車のリコール問題に関しては、日本を代表する企業の立ち居振る舞い方への注目、不具合原因に対するさまざまな解説、その経済的影響の大きさへの危惧など多くの視点から連日のように報道がなされていました。その方面の素人である私が本リコール問題について何がしか申し述べるつもりはさらさらありませんが、それらの一連の報道のなかでひとつとても気になったことがありました。それは、アメリカでの公聴会の席上でアメリカの議員が「日本製 (Made in Japan と言っていました) の自動車の品質は非常に良いという信頼感があったのに」と語っていたことです。直接のリコール対象の自動車は、アメリカ製の部品を使いアメリカで組み立てたものであるにも関わらず、「Made in Japan」とはっきり発言したことです。これは言葉の定義からすれば間違っていますが、私も含め多くの人にとって特に違和感はなかったようです。あらためて考えてみれば「Made in Japan」はさまざまな分野で実質的に「Made by Japan」と読み替えられているようです。日本で売られている家電なども東南アジアや中国などでの海外生産が普通になりましたが、ユーザーは生産国を充分承知しつつも、ブランド名を見て「国産」つまり「Made by Japan」を好んで購入しています。オリンピック観戦時のような愛国心で「国産」商品を買うようなユーザーはほとんど居ません。「Made by Japan」は品質が良いと考えているから購入するのだと思います。ここでいう品質とは、機能・性能、信頼性というような通り一遍の話ではなく、使い勝手や使い心地など感性に近い部分も含めた質を指していることが多いようです。この品質は、どこで作られたか？ではなく、どのように作られたか？が最も重要であると信じるからこそ、そしてその信頼感が今まで裏切られていないからこそ、「Made by Japan」の商品がユーザーから支持されているのだと思います。「日本のものづくり」が実践されていることが重要な点です。

さて、問題はレーザーです。微力ながらもレーザーを研究開発しビジネスを立ち上げようとしている会社の人間として、最近よくお聞きする「国産」のレーザーが欲しいというご要望は、非常に重大な内容を含んでいると思っています。もちろん多くの企業が日本の地でレーザーを生産し素晴らしいレーザーを供給しているのですが、それにも関わらずこのようなご要望が聞こえてくるということは、日本企業が真に質の良いレーザーを供給できていない部分があることを意味していると受け止めています。もちろん、企業側にも開発投資に見合ったビジネスサイズなのかとか、欧米と比較した場合の公的支援はどうかとか、異論もございます。しかし、まずは企業の責任において、使い勝手までも設計に織り込み、確かな技術で質の高い商品を生産し、ユーザーの信頼を得ることが先決です。さらには加工技術などのユーザーの視点からの議論も加え、単なる要素技術の研究・開発に留まらず、「日本のものづくり」を象徴するような完成度の高いレーザーを実現せねばならないと考えております。もちろん、たびたび議論されている産学官連携によるネットワークを利用させていただくことは言うまでもありません。さまざまな力を結集し、世界をリードするレーザーを目指したいと思います。

[†]オプトエナジー(株) (〒311-0122 茨城県那珂市戸6705-2)

[†]Optoenergy, Inc., 6705-2 To Naka, Ibaraki 311-0122